

鷺浦地区の歴史

古代から人々は鷺浦に住んでいる。鷺浦が現れる最初の文献は、「出雲国風土記」という地域の言い伝えを 733 年に編纂したものだ。そこにはこの地域は「鷺浜」として登場する。稲奈西波岐神社の信仰について、720 年に神話を編纂した「日本書紀」に記載がある。

江戸時代（1603 年 - 1867 年）中期までに、交易船が京都や大阪から日本海を航海し、定期的に訪れるようになった。港のお陰で鷺浦は栄え、交易関係、宿泊施設が揃った、風向きが好ましくなるまで待つために水夫たちが安全に錨を港に降ろせる場所であった。また、地元の卸売業者は国内の遠隔地からの荷物の配送を管理していた。

明治時代（1868 年 - 1912 年）と大正時代（1912 年 - 1926 年）の間もまだ、鷺浦は大阪の商業船が定期的に訪れる寄航港だった。急速な近代化と天然資源の需要から、鉱業という産業がこの地域に加わった。

1920 年代後半までに、銅山は閉鎖され、また国鉄が敷設されたため、海上輸送は激減し、鷺浦の商業的な繁栄は終わった。現在、漁業が主要産業となっている。